
【資料編】 第一回～第三回までの議事録

とばみなとまちづくり市民協議会立ち上げの第一回～第三回については、意見交換等、今までのまちづくりへの不満を乗り越えて、委員の皆さんにテーブルについていただくための、特に重要なセッションと位置づけ、この三回分に関してのみ、詳細な議事録を起こすこととした。

平成 17 年 10 月 18 日

第 2 回 （仮称）とばみなとまちづくり市民協議会議事録

【日 時】平成 17 年 10 月 18 日（火）午後 7 時～9 時 32 分

【場 所】鳥羽市民文化会館 3 階 第 3 会議室

【参加者】4 1 名

市 民：2 8 名

市役所： 8 名

伊勢志摩 NPO ネットワークの会：4 名

【主 催】鳥羽市まちづくり課

■当日配布資料

- (1) 第二回（仮称）とばみなとまちづくり市民協議会スケジュール [A 4 片面 1 枚]
- (2) （仮称）とばみなとまちづくり市民協議会 委員名簿 [A 4 片面 1 枚]
- (3) まちづくり交付金事業について（理解を助ける参考資料） [A 3 片面 1 枚]
- (4) H17.9.26 質問・意見まとめ [A 3 両面 1 枚]
- (5) 目的（案） [A 3 片面 1 枚]
- (6) 鳥羽市都市マスタープラン、他事業計画概略版 [A 3 両面 1 枚]
- (7) 第 4 次鳥羽市総合計画（抜粋） [A 3 両面 2. 5 枚]
- (8) 鳥羽市都市マスタープラン（抜粋） [A 3 両面 3 枚]
- (9) まちづくり交付金とは [A 3 両面 1. 5 枚]
- (10) 鳥羽市中心市街地整備改善活性化基本計画 [A 3 両面 2. 5 枚]
- (11) 鳥羽ベクトル会議 [A 3 両面 3 枚]
- (12) もてなしの原風景 伊勢志摩 [A 3 両面 2 枚]
- (13) 鳥羽商工会議所会報 [A 4 片面 2 枚]
- (14) 鳥羽エコミュージアムマップ [A 3 片面 1 枚]

第二回 「まちづくりものがたり」 ～「まち交事業」を理解して、今までの取り組みを振り返ろう～

■ STEP1 挨拶・メンバー紹介 19:04～19:11

まちづくり課：お疲れ様です。まちづくりは行政だけでやっても進まない。皆様のご協力を得てやっていきたい。まちづくり 10 年のうち、まちづくり交付金事業で 5 年間やっていきたい。さらにそれに拍車がかかる。方向性が決まる。よろしくお願ひしたい。

座長：座長になりました岩佐です。ベクトル会議から選ばれてきております。わたしから今回お願ひしたいことは、楽しい会議にしましょうということ。皆さん思いがあつて、それで意見がまとまらないことがある。正しいことでも決まらなければ何にもならない。正しいことだけでは動かないこともある。ぜひ、楽しい会、実りのある会にしていきたい。

■ STEP2 前回の振り返り、今日やることの概要 19:11～19:21

(1) 配布資料の確認

まちづくり課：配布資料を確認します。(1p「当日配布資料」参照)

竹内：配布資料が多いので、机を置いたらどうか。

進行：話し合いが主なので、こういう形にした。今後、必要であれば考えたい。

(2) 前回話し合ったこと

進行：前回いただいた「質問」とその回答はA 3（当日配布資料「H17.9.26 質問・意見まとめ」参照）に書いてある。様々な課題を残した会議だった。目的の部分をもっと明確にしよう、もっと納得してから反映していこう、鳥羽市の方からもっと詳しく突っ込んで聞いていこう。

(3) 前回決まったこと

進行：目的をはっきりする。範囲、エリア、期間をもっとつめる。どのように反映するか仕組みをはっきりする。鳥羽市はまちづくり交付金事業を皆さんと一緒にやって成果を出していきたい。鳥羽にはいろいろな取り組みがある。おもてなし、景観、まちの博物館、マリンタウン、鳥羽の都市再生整備計画。今までの問題点の中で、国や県の会議体があつた。県が主体で場所をつくるだけであつた。市が主催してやっていこうという会になった。鳥羽を玄関の方から創っていこうということになった。

(4) 前回の課題は？

進行：この間、何回集まっても、皆を参加させてまたアリバイ作りというのではないのという疑問や、統一的なランドデザインが無かつたんじゃないという話が出た。まずゼロから。これまででもよかつたものもあつた。それらを踏まえて、今日は、今までの事業を振り返って皆さんから意見をいただきたい。

■ STEP3 大前提をしっかりしよう(再) 19:21~19:47

進行：この間から3回のワークショップをした。10月3日に皆さんからいただいた宿題をもとに話し合った。10月6日には「まち交事業」を整理した。その成果を踏まえて、座長、副座長に集ってもらい、皆さんに伝わるかどうか相談した。

(1) まちづくり課のまちづくりの定義とまちづくりの範囲

進行：まちづくり課は何のためにやるのか。まちの基盤づくり、都市基盤諸力をアップする。暮らしのインフラ整備。ハードに傾いているが、皆がやっているソフトも含めてやっていく。広義の目的、狭義の目的、狭い範囲でやっていくと、できるだけ皆さんの意見を反映して事業をしていくことが使命ではないかということになった。

(2) 目的(まち交事業の概要から)

進行：10月6日には、実務者ワークショップをやった。何のために「まち交事業」はあるか。イメージ図を見て欲しい。

鳥羽市はランドデザインがない、つくらなければならないという意見があった。できるだけわかりやすく絵解きにした。はじめに基本的な構想がある。それが総合計画、元になる計画。

「笑顔と感動にであうまち」、それで総合計画がつくってある。分野別に構想計画がある。国土利用計画がある。これはどのように土地を活用していくかがある。

この2つで、都市マスタープランがある。地域の方針づくり。山の手だったら「環境に配慮」して、中心市街地だったら「心地の良い空間」、島の方は「まちの宝」、それが都市マスタープラン。その中で、中心市街地が鳥羽の玄関、顔というのがある。旅館でもホールが汚かったら誰も利用しない。平成9年からまちの顔をなんとかしようという話になった。大学の先生から玄関をなんとかしないと、という話になった。今回それらの事業を統合するように、これから5年間やっていこうということになった。

これが今回の取り組みの概要。なんとかしたいと皆さんに声をかけさせてもらった。

さっきの流れで一番大事なのは顔づくりじゃないかということが議論されてきた。玄関が汚いとお客さんが来てくれない。専門家は専門家でいろいろな仕事がある。市民は使い勝手のいいデザインをする。本当にできます、みんなの思いをのせて。

(3) 事業の期間、エリア

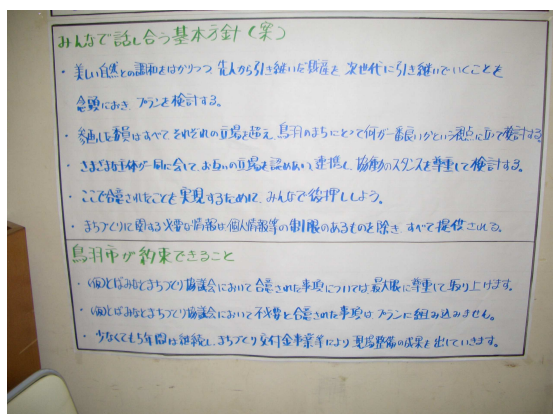
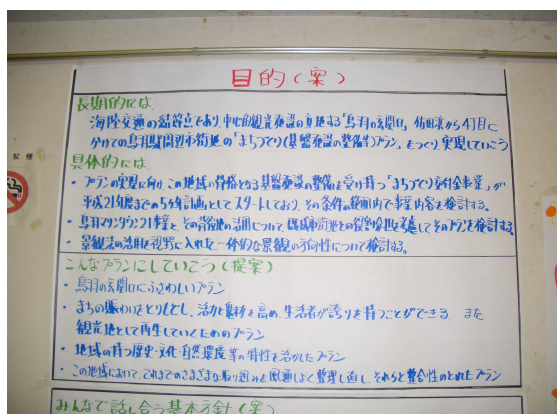
進行：範囲の話。佐田浜から奥谷あたりまでが江戸時代からの市街地。昔からの本町。そういうことで、鳥羽の顔を設定する時に、ある程度範囲を決める時に設定した。期間としては、「まち交事業」は5年が期間となっている。



まちづくり課：「まち交事業」は事業の枠組みが5年と決まっている。

進行：ランドデザインが無いということもあった。ただ、今までやってきたこともある。まず、具体的に進めていこうじゃないか。やっていく中で、具体的な中で、全体のイメージをつくっていこう。やっていく中でビジョンに育てていこう。ここだけは少なくとも同じだという共通点を探し、それが共有されてくれば、それがランドデザインになっていく。約束のできる行政にする。市民としては言ったこと、やったことに責任を持つ。この場所はキャッチボールをする場所。一緒に「もの」をつくっていく場所にしたい。やっぱり、マリンタウン21でもわからない部分がある。それも大枠で話をしていくことになる。ここでの議論を他でも話して行って欲しいというのがあった。今回、まちづくりの振り返りを入れる。目的は何か、経緯は何か、ということで。目的は何か、約束は何かということで案を練った。

－目的案（当日配布資料「目的（案）」参照）を読み上げる－



まちづくり課：国はいろいろなことを言うてくるが自由度の高い事業。地域の自主性でいろいろやらせてくれる事業。

進行：次世代性ですね。鳥羽のために何が一番いいかを最重要に。

(4) 意志決定の仕組み

進行：NPOが進行するのは多様な意見をまとめていくため。決定されたことは後押ししていく。情報は現場に出していく。現場に情報を出していくのは大変。それだけ今まで取り組みがされている。但し、鳥羽市の最高決定機関は議会。現実問題はここで決定したことを議会にあげていくということかと思う。ここに議員もいる。みんなで後押ししていく。

★ 質問 TIME

参加者：条件の範囲内というのわからない。

進行：それはこれから説明させていただきます。

参加者：何%の補助か。どんなしぼりがかかっているか。

大形：「まち交事業」の範囲が3丁目で終わっているのでは？うちは半分入っていない。奥谷は入っていない。

まちづくり課：西念寺のあたり。

大形：地域の範囲はもう少ししっかりしておいた方がいい。

中村：中心市街地の言葉の定義、範囲の見直しがあるのか。

進行：では全容についてお話いただきましょうか。

■ STEP4 早分かり「まち交事業」の全容 19:47~20:00

[資料(9)まちづくり交付金とは 参照]

(1) まち交って何、何のためにあるの(定義と目的)

進行：「まち交事業」って何っていうところから説明していただきましょうか。

まちづくり課：全国的に地方の時代といわれる。目的としては、地域の歴史文化を生かしたまちの活性化をはかる制度。まちの特性を生かして施設の整備をしていこうという事業。国が認めればお金を出しましょうということで、事業費の40%を国が出してくれる。

進行：鳥羽でいったら、中心地に賑わいを、もう一つは鳥羽の顔を整備。そこら辺は融通で変えられるので、鳥羽はそれで申請した。

(2) 範囲と期間は？

まちづくり課：まちづくり交付金の裏側。中心市街地をなんとかしようと、平成17年から5ヵ年で計画している。これについては、5ヵ年で決まっている。施設の成果を出さなければいけない。総事業費6億6千万円で、国が2億9千万円、市が3億6千万円(内借金が2億8千万円)を出す。範囲は、佐田浜の奥谷から樋ノ山、金比羅山を入れてスカイラインで交付金事業の申請をしている。都市再生は変更で融通がきく。目標に沿ったような形であれば、奥谷を増やしたいなら、理由がちゃんとしていればできる。年に一回変更ができる。

進行：手をあげて予算を取ったんで、変更がきく。

(3) 関連して色々な取り組みが動き出すよ

まちづくり課：一つが妙慶川、歴史回遊軸の整備。一つが港。この2つがある。今、計画にあげているのが岩崎通り。中京銀行からパールロードに入る道路、相橋、大黒橋の架け替え。その間の道路、ポケットパークの整備。案内板の整備4ヶ所。海側のマリンタウン。離島への玄関口となる港湾センターにある機能をこちらへ持ってきてほしい。雨よけのシェルター。港湾道路。都市再生モデル調査など、会議の費用なども入っている。

進行：都市再生モデル調査から計画という流れになっている。「もの」の整備ですね。

(4) 総合計画、マスタープランと「まち交事業」の違い

まちづくり課：もう一枚めくると工事等着手までのフローがある。計画の中に入れて、国の承認をもらう。内諾をもらって、初めて市が決められることになる。それから議会で承認をもらって、できることになる。

進行：融通のきくように申請してもらっている。

(5) 走り始めた電車

進行：まちづくり協議会の中で通ったこともあるが、かなり権限がある。ここで考えたことが最優先されて、政策会議に上がり、議会に上がっていくような仕組みになっている。

■ 休憩 20:00~20:10

■ STEP5 三つの流れを大きく振り返ろう 20:10~21:18

★ アドバイザー挨拶

浅野先生：皆さんこんばんは。初めての方もいらっしゃいます。三重大学の工学部建築学科の浅野です。伊賀で会議をしていました。余裕をもって着く予定が長くなってしまいました。これからよろしくお願いします。

進行：この4つの事業について、どういう事業だったか、振り返りをする時間を取りたい。それぞれの事業がどんな目的で、どんな経緯で、どんな内容で、何をどんな風に伝えたいのか。できれば、それに対してどこがよかったのか、課題だったのか。皆さんの手元にポストイットがある。皆さんの中でここが聞きたい、といったことを書いていただきたい。

(1) まちづくり工房21 ⇒(中心市街地を活性化しよう) 発表者:奥田徹さん

平成10年に通産省のまちづくり三法ができた。空洞化した中心市街地を元気にしようという事業だった。中心市街地基本整備案が、行政は企画、まちづくり、各課も出て基本計画案をつくった。それで市長が手をあげて通った。鳥羽市は広い。鏡浦から、離島もある。今まで補助金でやってきた。取り残されたのは今回のところ。課長も4人換わった。唯一〇さんがいる。行政はいつも継続性が問題になる。町内会の会長さんに各世代でお知恵をいただいた。電球がないとかは行政が聞いているが、国際観光文化都市として、鳥羽のまちを歩いて、百五経済研究所の統計で「このまちには来たくない」というのがある。歴史回遊のまち、中心市街地の活性化案、束ねさせてもらった。鳥羽の特性。そこにいる皆さん方と。決してここだけでなく、でも今回はここを形にしていければいいなあ。骨太の部分はこのように進めていきたいなあと思っています。

尾崎：大きくテーマが4つ。個別事業計画の進捗状況。それを次回の宿題でお伺いしたい。

(2) 快適空間 TOBA ⇒(おもてなしと心地よい雰囲気 of 鳥羽を創ろう) 発表者:世古貢さん

もともとは県からの事業。2005年、空間快適整備事業。詳しいことは『もてなしの原風景・伊勢志摩』のチラシ。伊勢志摩で5つの地区がある。地区別で会議が開かれた。まず始めに取り組みの内容。メンバーは各種団体。30名くらい。三重県の池ノ上サンロクさんという方が、このままで鳥羽市はいいんですかと問いかけられた。プロムナードをどうしたらいいかというワークショップを3回やった。参加者80名くらい。その意見をベクトル会議に移して、“かもめのプロムナード”ができた。ここにある具体的な内容は商

工会議所がやってくれた。わたしたちは空間の快適性を良くするというので、まちを何回も歩いた。皆が「妙慶川が汚い」ということになった。そこで、妙慶川の2本の橋をサビを落とし、色を塗った。若松屋さんの三角公園もうっそうとして、草刈をしたり、花を植えたりした。妙慶川自体も大きなゴミがあって、議員さんにも、プロテクトネチャーさんにも協力してもらって、目につく大きなゴミを拾った。水質調査とか。妙慶川について中村真一さんに話を聞いたり、昔の写真を義隆まつりで、『妙慶川今と昔』という写真展を行った。今年もまたやる。今年の委員会と水谷伸子さんが「鳥羽まちなみ水族館」、「流木アート」を夏にやった。最終的に3月に区切りがくる。手作りのマップをつくる。自分たちがいいなと思うところを紹介する。

進行：わたしも関わっている。「鳥羽の玄関口を」「妙慶川をきれいに」というのはわかりやすいことだったのでそこから入った。プロムナードは、計画を快適空間がやり、具体的なところはベクトル会議がやることで、誤解も生じた。

世古：4年くらいやっている。地域の人が参加してもらえなかったところが反省。

(3) ベクトル会議 ⇒(観光地にふさわしい景観を創ろう) 発表者:岩佐政徳さん

どんな風にして景観をつくっていくか。仮称の時は、鳥羽景観計画組織というものだった。“かもめの散歩道”をどうやってつくっていくかがあった。高潮対策の護岸工事を、敷地が7メートルで、コンクリートで固めていいのかということで、護岸の中のプロムナードを考えていくことで始まったのがベクトル会議だった。約半年間、7ヶ月で17回、ワークショップ3回して、今の“かもめの散歩道”の材料はどんなということもあった。意見としては、売店、海に触れるところというのもあった。海が一番きれいに見えるということになっていった。プロムナードを考えることで、景観形成の仕組みを考えていこうということだった。半年でかなりハードだったので、あとはあまり、となった。景観ガイドブックをつくった。今は、週に一回“かもめの散歩道”を清掃。メンバーとしては1ヶ月に1回くらいの担当。最後まで公に出せなかった、誰が決めた、どうやって決めた、という声があった。「空間快適 TOBA」からいいところをベクトル会議に取られたという声があった。風通しが悪かった。経済産業省から、(有)ワークヴィジョンズ、県まちづくり課、鳥羽ベクトル会議がグッドデザイン賞をいただいた。

(4) 商工会議所のさまざまな取り組み 発表者:佐藤さん

今まで3人の方が発表された。産業の活性化、商業、観光の2本を重点的にやっている。平成10年に、ハードは行政、ソフトを商工会議所がやっていくということで、手づくり工房“きらり”を。事業を始めたい人のチャレンジショップを2005年の5月に、町内会、商店街、ガイドセンター、いろいろな方と連携して交流の拠点をつくった。現在、活動を続けている。もう一つ、観光の方は、観光部会が中心になって、まちづくりを固有の歴史、文化、自然、「住んでよし、訪れてよし」の観光街づくりを進めている。海女文化の国、歴史や文化の掘り起こしを行っている。市内を11地域に分けて、鳥羽（大里通りに鳥羽みなとまちなみ文学館）、石鏡（魚見小屋の整備、案内板設置）、浦村（歌碑の設置）、

相差（ご利益巡り整備）。13年の1月。14年鳥羽みなとまちなみ文学館、石鏡魚身小屋完成。14年8月、浦田準一と乱歩・夢二館。平成15年、お守り。16年には春雨展望台完成。鳥羽市の活性化をめざしている。鳥羽エコミュージアムマップには各地区で行っているものが記載されている。離島地区もこれから推進していく。

進行：観光ルネッサンスは？

佐藤：決定が11月。

まちづくり課：国が民間に直接下ろすもので、「まち交」と連携してやりなさいねということ。外客誘致、モデル事業で手をあげている。採択されるかどうかはわからない。直接民間に補助する。民間もしばりがある。

(5) 質問、課題さがし

小川：妙慶川の整備は、一番問題なのはヘドロかと思うが、どう取り組んだか、方向や結論や。

世古：ほとんど予算のない会。浚渫しか方法がない。

進行：僕らだけではない。

尾崎：浚渫はしようということになった。でも、ヘドロを捨てる場所を自分たちで探せということだった。

小川：それを解決しないと。

世古：人海戦術でやれるものとは違う。昔、JCでやったが。これからの問題。

村山：まず妙慶川が臭くないようにするのが一番じゃないか。橋をきれいにしても、下の川が汚かったら何にもならない。合併浄化槽に補助金を出すということだが。わたしたちのところできているからということではないが。

進行：何かやると妙慶川になる。

中村：4つのもの、会議所がみんな関わっているのに風通しが悪いのはなぜかと思う。一つは“まちづくり”だということと会議所に頼り、会議所がパンクしてしまうのかなと思う。

進行：次回に「ここがおかしぞ」ということを振り返ってみたいと思う。会議所に振られる。ものすごい負担をしながらやっている。無理しながらやっているが、風通しを良くしていかなければいけない。

尾崎：4つの事業の整合性については。

進行：どの事業がどうリンクしているか、どうからんでいるか、次回はもっと詳しく、何らかの方向性まで出した上で。

尾崎：資本が、出てくると分かりやすいかも。

進行：早分かり表が必要か。

岩佐：妙慶川も進行するにあたって、とどのつまりになっているのかと思う。住民も、土俵に上がってもらって、そうすると水がどのように供給するか、出てくるように思う。尾崎幹さんが、「水が、源流がある。途中で民家がある」ということで、実行と建築の指し止めがあるから、そのところにまた皆さんでいい智恵を。

進行：課題として考えていきたい。

尾崎：そこまで考えていけたらおもしろい。5年あるから。

岩佐：この機会になんとか。

進行：今までの取り組みを尊重しながら、実現可能な範囲でそれをやっつけていこう。

杉田：あまりわからない。わかりやすく、自分の能力で意見を出していくことを考えて欲しい。世古さんが「住民が関わってこない」と話された。まちづくりは人づくり。事業のための会議になっていく。われわれのように区域外の人間も発揮できるようにして欲しい。専門家よりも、おじちゃん、おばちゃん、地についた言葉を大事にして欲しい。

進行：グループに分けて、まちに出て行くということも考えている。

尾崎：商工会議所さんの事業で、伊良子清白さんの生家とか。

奥田：皆さんの了解を得られたら情報を出していきたい。承認を得てから。

尾崎：ここでまちづくりをやり、他でやりして、整合性がおかしくなる。

村瀬：こんなペースでやっつけていいのか？

まちづくり課：さっきの「まち交事業」の今年度予算としてあがっているのが、岩崎通りの道路の整備と大里のポケットパーク。銀行からパールビルに入っていくところの設計、妙慶川の橋の設計。歴史を調べた上で、裏づけに基づいてということで遅れている。皆さんにお話しした上で。

進行：実は進めたいということもあるが、ここはみんなの夢を。

村山：「まち交事業」は行政側の考え方として出ている。6億6千万は決めているか。

まちづくり課：そうなんです。

村山：皆さんをどう考えているのか。皆さんは自分たちのまちをどんなにしたいんや、わたしらこうやっていきたいというのを持ってこないと、皆さん方は理想郷ですよ。そこを住民の皆さんがどう考えているのか。妙慶川をどうするかというのを本当に住民がどう考えているのか。

進行：進んでいることもある。

田端：大きな計画で流れていることも。近鉄側とJRというと、日和山のエレベーターがあった。駅が火事になり、エレベーターも老朽化した。岩崎で住んでみえる人も実際に計画をやってみたことがある。会議が閉鎖性あって、大きな動きになっていかない。

進行：できるだけオープンにして、まちの中の意見を生かしていく。こんな風にやりたいんやということで、オープンにしていくということですね。どうしてもこれだけは言いたいことがあれば、ポストイットに書いていただき、後で貼ってください。

■ STEP6 まとめ、次回の説明 21:18~21:32

(1) まとめ

進行：目的があった。こんなプランにしたいというのがあった。みんなで話し合う基本方針があった。約束があった。鳥羽の玄関口をまずやっていくんだということ、具体的には鳥羽の基盤整備事業。景観のこともやっつけていこう、どうでしょう。以上のような方針で進めていきたいんですが、よろしかったら拍手を。

(拍手多数)

進行：もう一つ、会の名前がある。“みなと”ということに違和感があるという話があった。座長、副座長に集まってもらって協議した。「とばみなとまちづくり市民協議会」で語りたい。鳥羽は昔から、風待ちの港だった。市民が一緒になって考えていく現場であるということ。

吉水：「まち交事業」アリバイ会議じゃないよ。

小川：原案賛成

(拍手多数)

進行：アリバイづくりにならないようにしたい。

(2) アドバイザ所見

浅野先生：いろいろな意見があって、今まで鳥羽が全体調整されずに来たというのは、今までの話の中であった。目的と名前に合意がもられたのは一歩。以前からまちづくりの事業が多い。人口2万人の規模で、熊野市や尾鷲市と同じくらいで、国の制度に応募できる。伊勢志摩国立公園の中にあるから。いろいろな国の事業に手をあげて、取ってきた。小泉改革。これからは必要な事業を選択して、不必要な事業はやらないという時代になる。これまでは恵まれていて、人口2万人規模でいろいろできた。仕切り直しするにはいい機会だと思う。よくこういったものを提案していただいたと思う。いままで市に提案しても、なかなかだった。最大限、今調整して、いきっかけにしていきたい。あとはこの目的に従って、方向転換できるものはして。短期的には、まずは港に関わる鳥羽の中心地に合わせて、動き始めている事業計画を調整していく。中長期的には、調整できるところへ持っていく方向に。まちづくり基本条例をつくっていくとか、事業ごとに市民協議会が立ち上げられたり、公開討論会をしたり、これを機会にそういうことがあってもいい。地方文化圏の流れの中でそういった中で、市町村が政策決定できるようになった。住民自治条例とか、まちづくり市民条例になったり。わたし自身は勉強させてもらいながら、短期的には、みんなで力を合わせてここに書かれた目標を、中長期的には、白紙の段階から関わっていくように。

(3) 次回の日程

《 日 時 》 11月8日(火) 午後7時～9時

《 場 所 》 鳥羽市民文化会館 3階 第3会議室

(4) その他

参加者：もうちょっと詳しく、こうしたらいいという激論タイムを。説明ばかりでストレスがたまった。

大形：時間を9時までに終わらせてください。

(5) 副座長、締め挨拶

奥田：ゼロからが理想だが、現在走っているものもある。皆さんの協力でやっていきたい。

平成 17 年 11 月 8 日

第3回 とばみなとまちづくり市民協議会議事録

【日 時】平成 17 年 11 月 8 日（火）午後 7 時～9 時 25 分

【場 所】鳥羽市民文化会館 3 階 第 3 会議室

【参加者】41 名

市 民：28 名

市役所： 8 名

伊勢志摩 NPO ネットワークの会：4 名

【主 催】鳥羽市まちづくり課

■当日配布資料

- (1) 第三回（仮称）とばみなとまちづくり市民協議会スケジュール [A 4 片面 1 枚]
- (2) ☆目的 [A 4 片面 1 枚]
- (3) まちづくりニュース 平成 17 年 11 月 1 日発行 7 号 [A 4 両面 1 枚]
- (4) 既存計画の共通点・進捗状況 H17.11.08 [A 4 両面 2. 5 枚]
- (5) 各グループの共通点等検討資料 [A 3 片面 1 枚]

第三回 「まちづくりものがたり 2」
～ひとりひとりの取り組みを振り返ろう、良かったところ、課題のところ～

■ STEP1 挨拶・メンバー紹介 19:00～19:05

進行：こんばんわ。第三回のとばみなとまちづくり市民協議会です。今回は、みなさんの意見をどんどん出していただくような場づくりとしました。

課長：この会議も3回目を数えます。3ヶ月に2回と考えていたけれど、1ヶ月に一回程度にしたい。

座長：前回、前前会と二回行った。聞いているだけで飽きてしまったかも。今日はしゃべってもらえる機会、意見を出していただく機会を設けた。忌憚のない意見を。また、今日は9時には終わりたいのでご協力いただきたい。

■ STEP2 前回の振り返り、今日やることの概要 19:05～19:15

(1) 配布資料の確認

まちづくり課：『事項書』A4裏表、『既存計画の共通点・進捗状況』裏表A4が3枚、A3が1枚、庁内に流した『まちづくりニュース』が1枚。

(2) 前回話し合ったこと

進行：前回までのもの（会議の記録）があちらに張ってある。鳥羽市のいう“まちづくり”というのは、まちの基盤整備、鳥羽の場合は観光の基盤づくり。根っこをつくっていくのがまちづくり課。市民の思いと行動を活かしてまちづくりをしていく。まちづくり協議会では交付金事業というのを出来るだけ効果をあげてやっていく。絵柄がある。まちづくり交付金事業と言うのはまちの根幹をしていく。まずは中心市街地からやっていく。宝物を活かすもの。環境、農、島を活かすもの、まずは玄関がきれいになっていなくてはいけない。範囲は鳥羽の中心になるところをきれにするために。まちづくり交付金事業は5年の年限があるので、まず、先にやらせてほしい。鳥羽の顔づくり。5年の期間がある。すでに走り出してしまっ、何もしなくても終着駅に着いてしまう事業。それならみんなに飛び乗ってもらって、今回は中野課長に腹をくくってもらう。走り出した電車に飛び乗ってもらわないとそのままいってしまう。中心市街地を活性化しようとして、まちづくり工房、それから快適空間、それは鳥羽を雰囲気の良い町にしようということをやっていた。ベクトル会議では観光地に相応しい景観をつくる。この前浅野先生が言ったように、これだけの人口の町で、これだけの事業をやっていくのはすごいこと。でも100%ではない。そこを今日は振り返る。

(3) 前回決まったこと

進行：前回、会の目的と名前を合意しました。事項書の裏に刷ってもらってある。長いので読みます。

－目的（当日配布資料「目的」参照）を読み上げる－

進行：長期的には、鳥羽の玄関口をきれにしていこうということ。具体的には、観光地にふさわしいええような景観にしていこう、こんなプランにしていこう、話し合った成果を基本方針にしてやっていくということになった。

(4) 今回やることの概要

進行：事項書3番目で「まち交事業」の進展をお話させていただく。4番目は、皆さんが思い入れを持ってやってきたことを見取り図にしていきたい。差し迫った課題もあるので、そこらへんをまちづくり課の方から説明してください。

■ STEP3 「まち交事業」関連あれこれ簡単に報告 19:15～19:34

(1) まちづくりニュース

まちづくり課：『まちづくりニュース』に合意された会の名称や目的、“かもめの散歩道”がグッドデザイン賞を取ったことを入れた。前回の宿題については、既存計画の共通点・進捗状況にA～Dということでもとめた。まちづくり工房21、商工会議所さん、快適空間TOBA、ベクトル会議。その4つの計画について、共通点はなんやろということで、つくらせてもらった。自然・環境・文化、みんなの計画に入っている。「0」の“中心市街地の賑わい”と、「1」の“景観”の上から2番目に丸がついてない。具体的に考慮して入っている。“ガイドライン”を統一して入っている。“ガイドライン”が二重丸なのは、そのものなので。例えば「2-8」とか、「△」になっている。エコミュージアムの計画を取り入れてということで、「△」になっている。エコミュージアムについては、みんなの計画に取りあげられている。1枚めくると、共通点。“岩崎錦町線の整備”の「3-2」、さっきの3の歩くまちづくり「3-2. 歩行者空間ネットワーク・回遊」の共通点のところとここが同じになるようにできている。右の進捗が今やっているところとかが入っている。工事予定は今後。あと、別表Bとありますが、エコミュージアムそのものなのでということで、Bがそれにあたる。同じようにめくると、空間快適、ガイドブックも同じような形であればある。

司会：共通点もあり、あちこちで分担しながらやっているところもある。見てみないとわからない部分もある。では、観光ルネサンス事業について。取れたらいいですね。

(2) 観光ルネサンス事業の朗報

まちづくり課：商工観光課がやっている。外国人をもてなすための、主にソフト事業をこちらでやる予定。商工会議所さんでやっていただくように、商工観光課が応募した。全国22件応募があって、13件が内定した。東海地方では鳥羽だけ。「まち交」と一緒になって採択された。

商工会議所：なぜ今、観光ルネサンスに手をあげたかということ、2年前から想定していた。

国の観光施策が外国人誘致をしていこうという動きがあった。エコミュージアム、まちづくり工房、特産品の開発、この3つの事業を観光ルネサンス事業の主体として応募した。中部国際空港もオープンした。鳥羽市が7600万。3000万を国から。鳥羽市の役割は地域観光計画をつくっていくこと。9月中旬に応募して、11月1日付けで採択された。

進行：外国人を誘客するためのチャンスを取った。

(3) 質問 time

小川：既存のもの、われわれのやっていることとのつながりがわかりにくい。大里の江戸川乱歩の文学館をやっているかが、どう関わっていくのか。

商工会議所：まちづくり交付金事業は行政がやる。民は観光ルネサンス。ルネサンス事業の中にエコミュージアム事業が含まれている。まちづくりは協議会がやる。意見があれば入れていく。

まちづくり課：“ソフト部分”というもののハードの整備も入っている。会議所が文学館の改造にも取り組んでいく。「まち交事業」の基盤整備に。二人三脚で取り組む。

進行：今やっていることとの関わりを出していくことから。机上のことではなくて。これから町を歩いて考えていきたい。19:34

■ STEP4 ~ひとりひとりの取り組みを振り返ろう~ 19:34~19:40

(1) 「A様、B様」的、良かったところ、課題のところ意見出し

進行：言いたい事をポストイットに書いてもらって、貼ってもらって意見交換をしていきたい。一人ひとりのやっている事業の良かったところ、課題のところを意見出しをしてみたい。

- ・ 条件：鳥羽の玄関口をよくする基盤づくりに関わることについて
- ・ 条件：みなとまちづくり（みなと～四丁目界限）の範囲での取り組み

みなとまちづくりのことで、皆さんが今まで取り組んできた良かったところは「青」のポストイット、今までやってきたけどここが悪かったというのは「赤」のポストイット、心に秘めた解決策は「黄色」のポストイットで、こんなふうならよかったのということを書いてください。自分がやっている活動については「A」と記入、自分がやってはいないけどという活動については「B」と記入してください。

《「A様、B様」的、良かったところ、課題のところ意見出し》

A様・・・自分がやってきたこと

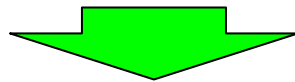
B様・・・外から見て

良かったところ(青)

悪かったところ(赤)

解決策(黄)

(1) 中心市街地活性化 わたしのやってきたことはまちを活性化することをやっていたのか、	(2) こちよい空間・おもてなし まちをよい雰囲気にしたかったのか	(3) 観光と場、素敵な景観	(4) まちづくりのやりかた、仕組み、仕掛け、ネタ	(5) その他
---	--------------------------------------	----------------	---------------------------	---------



図解して、共有しやすい見取り図づくり



共通の“おもい”探し



長期の方針へ

進行：自分でつくったような気がしない。でも、そのギャップを埋める作業をしたい。これをベースにして、自分たちのかかわっている、思い入れがあって、参加しているとか。こういうイベントをやっていたけど、声をかけてくれたらよかった。A、わたしら花いっぱい植えてまちの人たちに喜んでもらったけど、デザイナーとやったらもっとよかったかもとか。10分ばかり取りたい。書き終わった人から休憩をしてください。次は19:55スタートにします。

■ 休憩 19:50~19:55

■ STEP5 いろいろな、みなとまちづくりの取り組みを見て 19:55~20:30

進行：浅野先生が到着しました。

浅野：遅れてすみません。今日もよろしくお願いします。

進行：ポストイットのある方、どうぞ。手をあげてもらったら取りにいきます。皆さんが休憩している間に、仮の仕分けボックスをつくった。

(1) 中心市街地活性化	(2) ここちよい空間・おもてなし	(3) 観光と場、素敵な景観	(4) まちづくりのやりかた、仕組み	(5) その他
--------------	-------------------	----------------	--------------------	---------

(1) 中心市街地活性化

- ・ きらり工房・・・あまり人通りがない場所。
- ・ まちなみ水族館・・・忙しい期間だったので、一部の人に負担がかかった。岩崎の人の意識が変わったかも。地域のひとたちを巻き込むことが必要。

(2) ここちよい空間・おもてなし

- ・ 来年までの事業なので、マップづくりで完成をしていこう。
- ・ いつもJRや楽しんでいただけたのではないかな。植え替えが大変。

(3) 観光と場、すてきな景観

- ・ すぐもうけとか集客に結びつけるが多かったが、鳥羽が評価されることになるかと思った。今までそういう視点が欠けていたのではないかな。
- ・ 景観づくりにはセンスのあるデザイナーが必要と思う。
- ・ プロムナードの施行は早く事業とは別個の目で見ても、名張の赤目の話をした。あのままの格好で、ミキモトの方までやればいい。港湾施設ということで。役所の中途半端にせずにやったら。
- ・ どの景観を残すのか。写真を使って町並みを紹介していた。一体どこがよかったんや、今はどこがやっていくか。共通の理念が、具体的に何が宝であって、何を残していくか。地域の、この地域にこういうものがあるかというのを認識しているよりも、今あるもの何を残していったらいいかを。
- ・ 自分たちの考えていることと専門家の考えていることを一方通行でなく、話し合えばいい。専門家だけになってもいけない。両方で。
- ・ 赤福の前の。色彩感覚が悪い。
- ・ 色は別にして、使うものとかに関しては自然のものが使ってあったりするの、いいのかなと思っている。
- ・ 専門家、官民、やってよかった。ベクトル会議、できたことはいいじゃないかな。
- ・ 見直しは、各団体で市民の目でやっていることがいい。
- ・ 中心市街地の見直しが市民の手でできていること。
- ・ 全体像がわかりにくいこと。
- ・ あっちこっちと本論以外に出てきたことを調整しにくい。
- ・ 住民の取り組みだけでは限界があるので行政のバックアップが必要。
- ・ 関わっている人が限られて、どんどん少なくなってくる。
- ・ よくこれだけの範囲にこれだけのネタがあるもんだ。

- ・ 鳥羽小のWSなど今コラボレーションができています。そういう仕組みづくりがいい。
- ・ やったらんかい義隆まつり。若い人ががんばっている。商店会のまつり。今考えてみれば人事も変わって、若い人たちが関わってくれ、12～3年たって、二十歳くらいの人たちも関わって続いている。継承できているのがいい。活性化で始まったことが人づくりになっている。
- ・ 鳥羽小は20世紀から始まっている。コラボレーションの言葉がなかった。伊勢志摩NPOネットワークの会がやっている。まちづくり課も聞いてくれているし。鳥羽小もまちづくり課が主になってやってくれている。横つながりができて、風通しがよくなっていけばいいまちになる。

進行：実は、これはちょっと違うというのがあれば。反論があれば。ないですか？

尾崎：今、全部が進行中のため、どこがいいとか悪いとか出しにくい。結果が出ていないから。

進行：どこがいい、悪いとは言いにくい。まだ時間があるので、これだけは言っておきたいというのがあれば聞いておきたい。

杉田：防災上との兼ね合いというのはどうなっているか。

まちづくり課：まちづくりの中の一つには違いがない。福祉とかいろいろある。触れられる部分については、こうやろう、避難路にしたらいとか、そういう検討は当然していただきたい。全体を入れていただきたい。バリアフリーはどうかとか。

進行：まちの機能の根本をつくろうということですね。今まで出てこなかった。

杉田：まちづくり工房の方は書いてあるが、防災機能の向上になっているが、入っていない。

進行：何かここ気になるなあとか、ここをこうした方がいいとか。

中村：基盤整備というと住む人の視点。玄関口というと訪れる人の視点。自分たちがいいなと思ったところを入れるのか。

進行：もともとおもてなしを考えると、アンケートをしている。観光客が訪れたときにあまりいい評価がなかった。大王町は絵描きのまちとか、観光地として整えていかないといけない。その視点で入っているもの。

中村：今度自分たちが考えたものが、いいというのはどうやって決めるのか。

田畑：自分たちの住みやすい話で、その延長線上で話をするべき。住みやすいまちであれば、「あっ、きれいなまちやな」ということになる。住民意識を変えていくということも大事。

進行：住んでいる自分たちの。

尾崎：まちづくりはどうしても「歴史文化」がある。歴史文化のまちが、観光客が歴史文化、住む人も歴史文化でいいのかどうか。これだけ世の中の流れが速い中で、昭和村とかできていて。わたしたちが決めてそれでいいかということ。次の世代によいとってもらえるか。

水谷：全国どこにでも城下町がある。同じものがあるからということで、マネをしてもだめ。オンリーワンをめざすべき。ここは漁師のまちですから、そこを中心にした方がいい

のかもしれないと思ってやった。一方的に城下町で了解していいのかと思う。昔があって、今がある。

進行：新しい時代にあった。

奥田：変えてまでということでもない。

尾崎：花とかは新しいソフトということ。

村山：今、歴史文化と言うのは小学校のこともある。皆さんが本当に歴史を理解した上で考えているか。この商店会は一体、ターゲットは何を。地元に来ていただくのか、ごっちゃ。ゾーンで考えないと。きりり工房だけポーンと浮いている。真珠婚ということで、30年まえの町並みを再現するとか。線で結びつけて。地元のものでも歩くだけでも楽しい。

水谷：きりりみたいな店が5～6件並んだらいい。でも維持が難しい。

司会：本当に。

尾崎：歴史文化は癒し。でも癒しを求めている観光客も他のものを求めている観光客もいる。

参加者：鳥羽は贅沢。何でもあるから。山しかなかったら、山だけ。海もある。歴史もある。十人十色に考える。

進行：オンリーワンが乱立しているまち。

参加者：ランドデザインが大事だと言った。この会議でまとめないと。共通点があるので、折角ゾーンができていると思う。妙慶川ができる。本来ならやってもらわなきゃいけない。鳥羽の顔として、鳥羽の。ゾーンが大事。鳥羽の1～4丁目までのランドデザインが大事。いままでの部分でまとめて。取り組んだものもったいないですよ。

進行：次は一丁目～4丁目まで歩くことを座長と考えている。

座長：本当にそれを残すんだ、というものを売って。まだみんなの中ではバラバラなんだということで、歩いてみる。

■ STEP6 「まち交事業」の実際とさしせまった課題 20:30～20:50

(1) 整備計画の見直しとは？

まちづくり課：都市再生整備計画について、来年の1月頃から協議に入ることになっていたが、見直しがあったら11月4日までに資料を出せよということだった。日がなくて、今の計画があがっているものについて、概算であげていたこと、候補や予算について。

(2) 今年度の工事

まちづくり課：相橋の護岸の歩道。上を舗装して、見場を良くする予定。妙見さんに石積み。調査もした上で、石積みをする。大黒橋、相橋は、実際に調査したら、ボーリング調査で地盤が悪い。歩柱をしないとダメ。液状化対策にも費用がかかる。相橋の橋のキワを掘ると家屋に影響が考えられる。杭を打つ機械も遠くから。移転についても、協議に応じてもらうということで、予算がアップした。ここの会の中で、6億6千万。整備計画は7億になっているが、予算の範囲内で収まる。前の計画では、鳥羽の日野邸の活用、あれらのことについてもここで考えていきたいと思っている。ある程度の増額は検討の範

圏内で考えている。テーブルにあげないとステップに進めない。今年度のことだが、岩崎通りの入札があった。終わっているところから、サークルKまで今年度完成。大里文学館の空き地が、ポケットパークであげていたが、なんとか了解が取れて、どういうカタチでさせていただけるか、地元の人達と話をした中で。

進行：近々のことなので、皆さんに情報を出して。

まちづくり課：この中で詰めていけるといいが、大きな話と、ポケットパークの話もあるので、地元の人達との会合の中に入れていただいて。

尾崎：プランがあるんですね。

参加者：18日にその要求をどうしようか、集まる。主だったところが集まって、大里として意見を出していく。

まちづくり課：町のこともあるし、大きな中での一つということもある。

田畑：大里は排水関係もあった。当然、妙慶川の排水の件もあった。

小川：予算もいくらかどうか。浄化槽もできるのか。

村山：ここからも出っ張って行って、住民の皆さんから意見を聞いたりするべき。地についてない。まず、それからやっていくべきだと思う。

まちづくり課：妙慶川の遊歩道の設計も年明けになる。水族館の調査もかかってくる。

進行：場所をつくって、出前もして、みんなにわかってもらう機会をつくる。

(3) 来年度の予定(案)

まちづくり課：来年度の予算を準備する時期。12月の中旬がリミット。うちの予算はそれがリミット。国の方への予算が明日。それには確定させていかななくてはいけない。大黒橋の取り付け、妙慶川の遊歩道。パールロードの公園の設計。マリントウンの設計。

進行：大枠で予算を取って、細かいところを詰めていく。

(4) その他 イルミネーション、モデル調査、ルネサンス、鳥羽小

進行：国の直接の民間への都市再生。「まち交」のもとにあればいいが、3年がかりでついて、マスタープランづくりが、国の契約づくり途中。観光ルネサンス事業は商工会議所で。3年がかりでようやく国から決定をもらった。鳥羽小の用地の選定は教育委員会でやっているが、8つから2つに絞り込まれた。日和山（鳥羽主水の砦跡）との埋蔵文化財となっている。尾根伝いが全部そう。

まちづくり課：あったものを壊してしまった。1mしか石垣が残っていない。

参加者：鳥羽小をどうするのか。

まちづくり課：何を残すのかというのは大事。専門家にも入ってもらって、まず、勉強ということになるのかもしれないが。去年から始めたイルミネーション。21日午前10時～マリパークイルミネーションの飾り付けのお手伝い。声をかけてください。

■ STEP7 その他報告、まとめ、次回の説明 20:50～21:25

(1) まとめ

進行：今回はこういう風に、「何が良かったか」を見取り図にしてみた。根っこの部分を。

(2) 次回の説明

進行：実は座長とも話をしていたんですが、予定表にあるようにこれを「良いところ、悪いところ」「どこを残した方がいいか」という部分を含めて歩いてみたい。

座長：そういうことで。

進行：半日くらいかけてと考えている。

まちづくり課：日曜日の昼からやったらどうやらな。27日でどうやらな。

尾崎：20日は？座長は？

進行：27日のグループ、コースを分けるかというのを考えている。1時始まり、文化会館前。まちの宝物探し。

尾崎：大里では8年前に2丁目まちづくり会議でマスタープランづくりをしていた。

村田：マスタープランはあっても「DO」はどうなん。

進行：ゲー。

(3) その他報告

小川：市民の皆さんは意見を持ってきてくれると思う。インターネットで意見をもらえるようにしたら。この会議の。

進行：トピックのところから飛んでいける。

小川：ニュースに書かな。

進行：コメントに書き込めるようになっている。まちづくり課さんの玄関口ができないとこちらにとんできてくれない。

参加者：入札で決まったということで、黄色い道が吉水電気で道が終わってしまうということで、あれで終わりですか？

まちづくり課：終わりです。

進行：日和山についても可能性はゼロではない。ただ、問題が山積み。埋蔵文化財はお金と手間隙がかかる。その可能性がある。坂手の人達はすごくいい場所だし。用地を選定する場所に。それが本当にできるかどうかというのは、これから継続して検討していく。

(4) アドバイザ所見

浅野先生：今日も長時間ご苦労さまでした。今日の場合だけでなく、市民の皆さんから出てきた意見・課題は、やはり柱となるものは、伊勢志摩国立公園の中で生活していること。人口2万人が、これだけの予算がついてくるというのはありえない。立地条件、歴史文化、伊勢神宮もある、神宮の賛成も得て、伊勢志摩区立公園になった、戦後鳥羽もなった。戦後第一の国立公園になった。近鉄も力を入れてきた。プラスに働いて鳥羽も大きくなった。中長期的に見た時、国立公園指定を受けて、急に大きくなった。この50～60年のプラスに働いた面、マイナスに働いた面、いろいろある。検証し、羅針盤をつくっていく。まず、港を中心にした中心市街地をやっていくことを考えた時に、本当に考えないと、市内は空洞化し、郊外開発が進んでいく。郊外開発が進んでいる日本の地域、都市はどこもそ

う。中心市街地は、鳥羽の、鳥羽近代都市、皆さんがそこまで、大型店の話ができていく。いろいろ考えないと意見と違うことができていく。まちづくり交付金の事業の市調整。考えることはたくさんある。他では議論しにくいことは議論に乗ってこれない。中長期的にも考えて欲しい。戦後第1号の国立公園、十年前後のリゾート法で随分変わった。企業も力を入れて開発した。うまくいったところもあれば、うまくいかなかったところもある。市民参加でやっていけるか、多くの観光地で問われている。伊勢志摩国立公園で傾向として短期決戦で話す部分が比較的多かった。先ほど、歴史文化の取り扱いも市民の人が知っているか、いい意見だった。守る事業は弱かった、つくる事業が多かった。50/50くらいが、バランスが弱かった。最新で進んでいる4つの計画を活かせる手がかりは活かしていく。うまくいかない部分は足していく。新しいものを足していくときは、延長線上に新しい文化を創造して足していく。戦国時代村、本当に二見の人が歴史文化を大切にしていよんできたのかどうか。息の長い、脈わいの戻ってきている地域の文化、どれも十年、二十年、短期で出来るところはして、中長期で直していく。本当に次の子どもたちに残していきたいまち。みんなでどう調整して、みんなで議論していくと。新しい魅力を付けていく。防災、老舗のまちでは防災が弱い。観光地で観光客を誘導したりということも考えている。防災面でも新しい魅力になってきている。バリアフリーセンター。20世紀は健常者、21世紀は鳥羽市民みんなが車椅子に手を差し伸べる。それが新しい魅力になる。ぜひ、20世紀の鳥羽ができなかったものを21世紀の鳥羽が全国の国立公園のモデルとなるようにして欲しい。

(5) 副座長、締め挨拶

副座長：盛りだくさんのテーマで、いっぱいあって、頭がこんがるほど。鳥羽のためにやってきたので、懲りずにまたよろしく願いいたします。

平成 17 年 9 月 26 日

第 1 回 (仮称) とばみなとまちづくり市民協議会議事録

【日 時】平成 17 年 9 月 26 日 (月) 午後 7 時～9 時 30 分

【場 所】鳥羽市民文化会館 3 階 第 3 会議室

【参加者】41 名

市 民：28 名

市 長： 1 名

市役所： 8 名

伊勢志摩 NPO ネットワークの会：4 名

【主 催】鳥羽市まちづくり課

■当日配布資料

- (1) 第一回 (仮称) とばみなとまちづくり市民協議会スケジュール [A 4 片面 1 枚]
- (2) (仮称) とばみなとまちづくり市民会議委員名簿 [A 4 片面 1 枚]
- (3) (仮) とばみなとまちづくり市民会議 前口上 [A 4 片面 2 枚]
- (4) とばみなとまちづくりをはじめよう 目的 (案) [A 4 片面 1 枚]
- (5) これまでの活動経緯等一覧表 [A 3 片面 1 枚]
- (6) これまでの活動内容 [A 3 片面 2 枚]
- (7) 既存計画まとめ [A 3 片面 1 枚]
- (8) 都市再生整備計画の目標及び計画期間 [A 4 片面 1 枚]
- (9) 都市再生整備計画の整備方針等 [A 4 片面 1 枚]
- (10) 佐田浜・岩崎周辺地区 (三重県鳥羽市) 整備方針概要図 [A 3 片面 1 枚]
- (11) 港湾事業平面図 (第 1 期計画、平成 17 年度予定) [A 3 片面 1 枚]
- (12) 都市再生整備計画 佐田浜・岩崎周辺地区 表紙 [A 4 片面 1 枚]
- (13) まちづくり体制 (案) [A 4 片面 1 枚]
- (14) とばみなとまちづくり今後の流れ 概要 (案) [A 4 片面 1 枚]

第一回「オリエンテーション」～みなとまちづくりをはじめよう

■ Step1 挨拶・メンバー紹介 19:00～19:14

まちづくり課：こんばんわ。お集まりいただき有り難うございます。これまでのような会議ではなく、協働型の会議で、伊勢志摩NPOネットワークの会に進行をお願いしています。

伊勢志摩NPOネットワークの会：川村です。一つ一つ順を追って進行していきたいと思えます。まず、資料を確認、A4の紙が7枚、A3の紙が6枚。資料のない方は手を上げてください。(仮称)とばみなとまちづくり市民協議会のオリエンテーションということで始めたいと思います。

市長：こんばんわ。4月に就任した木田です。初めての会合にお集まりくださって有り難うございます。今日は鳥羽のことについていろいろ意見を出していただいて、まちづくりに。まちづくり交付金事業については、岩崎の方がきれいになった。マリンタウンは総額138億。一期の最初の計画(100億円)がまだ終わっていない。バブルの崩壊とともに、「マリン」ができるけど、「タウン」ができないという状況に。港湾センター、ターミナルをどうするのか、県からも聞かれている。今回、みなさんからご意見をいただいて、「タウン」も考えていきたい。市民については楽しめる、誇りの持てる鳥羽、観光客にとっては今までないものを提供できる鳥羽。鳥羽市民にとっていいところは観光客にとってもいいところ。決まったものは、鋭意努力して実現していきたい。鳥羽型でモデルケースになるようにしたい。私たちががんばるので、よろしく願いいたします。

まちづくり課課長：(仮称)とばみなとまちづくり市民協議会にご参加いただきまして、有り難うございます。鳥羽のまちづくりは平成14年からかかっている。今までの行政事業と同じと見られていた。今までは町内会と話をしてやってきた。遅きに失しているが、住んでいる方のご意見を聞いて、まちづくりをどうやってやっていくか、意見を聞きながら、これから前向きに考えていきたい。まちづくり交付金事業も計画変更も考えている。どうかお願いしたい。

伊勢志摩NPOネットワークの会：(川村以下4名のスタッフ紹介)

川村：(本日のスケジュールを説明。詳細は別紙参照)今までの取り組みと現状についてまちづくり課から説明がある。これから進めていく上での約束がある。その後休憩がある。三重大大学の浅野先生にアドバイザーとして関わってもらおう。話し合った成果を整理して、次回につなげる。前口上があるので、時間がある時に読んで欲しい。(読み上げる)

■ Step2 目的の共有と合意 19:14~19:21

川村：資料の 5 ページ目をざっと読んで、その後まちづくり課の岡村さんからご説明いただく。そちらの模造紙にも書いたが、「とばみなとまちづくり PLAN」の共通のベースをつくって、実現していこうというのが長期的な目的。短期的には海側の取り組みとまち側の取り組みで分かれている。出来たプロムナード、城山にかけての中心市街地、妙慶川境界について差し迫っているのでできればそこから始めたい。今回、伊勢志摩 NPO ネットワークの会がなぜ引き受けたかという、市民と行政との文化の違いを少しでも埋められればと通訳のつもりで入っている。目的は、「市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく」協働のまちづくりをするためである。[当日配布資料 5 ページ目参照]

■ とばみなとまちづくりをはじめよう

★目的 (案)	内容
1. 長期	とば、みなと中心市街地に関わる既存のさまざまな取り組みを、風通し良く、総合的に、協働のスタンスを尊重して、整合性をはかり、みんなで同じテーブルについて、とばみなとまちづくり PLAN (共通のベース) をつくり、実現していこう。
2. 短期	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>とばみなとまちづくり PLAN のうち</p> </div>
3. 協働のまちづくり	市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく

岡村：長期の、具体的にどうしていくかということで、まちづくり交付金事業があって進んでいるが、もう一度見直して、マリンタウンについても、皆さんと考えていきたい。今回、妙慶川の交付金事業が進んでいて、今の相橋から設計に取り掛かることになっている。みなと城下町エリアビジョンを共有していただいて。大里の方でポケットパークも計画している。限られた時間の中で、集中するために、妙慶川を考え、ポケットパークはまた別に皆さんにご意見をいただく機会を持つということがいい。

■ Step3 今までの取り組みと現状 19:21~19:37

★～早分かり鳥羽のまちづくり 概要編(イベントを除く)

川村：鳥羽は複雑。中心市街地、港湾がある。それぞれの団体でそれぞれいいことやっている。知らないだけで。大学の先生に振り回されていることもあるがいいこともある。そこをすっきりしたうえで先に進みたい。

1. 中心市街地を活性化しよう [資料(6) これまでの活動内容 1/2 参照]

これまでの中心市街地活性化は、空き店舗の増加や空洞化があってそれをなんとかしようと思った。基本計画は商工会議所。平成13年3月、鳥羽まちづくり工房21を会議所で立ち上げた。まちづくり工房21が中心に、平成13年、手づくり工房“きらり”を立ち上げた。JR鳥羽駅前の花壇の整備、“きらり”の前のコンテナ植栽に取り組んでいる。手づくり工房“きらり”は中心市街地の活性化。

商店会さん、2丁目まちづくりを考える会がまちづくり工房21の前にあった。独自に、自分たちの町内でお金を集めてやっていた。岡村さん、浅野先生が入って、いろいろあって頓挫した。

2. おもてなしと心地よい雰囲気 of 鳥羽を創ろう

[資料(6) これまでの活動内容 2/2 参照]

三重県が平成12年度、愛知万博の戦略プランで、伊勢志摩地域は空間の快適さをということを出てきた。基礎調査をやって、計画を考えていこうと、民間とやってきた。快適空間の部会(⇒快適空間 TOBA)を立ち上げた。その中で、平成14年、妙慶川中心に、2つの橋をペンキで塗る、平成15年は小公園ではまなでしこを植え、参加型の事業で水質チェック教室や雑排水対策や、中村進一さんに来ていただいて写真を撮るということ。

川村：もっといい雰囲気 of 環境を、みんなが一番問題と思ひ、始めたのが妙慶川だった。

3. 観光地にふさわしい景観を創ろう [資料(6) これまでの活動内容 2/2 参照]

三重県の2005年集客交流プロジェクトで、伊勢志摩再生プロジェクト。地元の者で改革をということ、それで立ち上げた。景観に配慮した鳥羽ベクトル会議を立ち上げている。

「かもめの散歩道」半年で20回くらいの会議で、できあがった後も鳥羽駅周縁の景観ガイドブックにも携わってもらっている。

川村：観光地として、いい雰囲気、いい景観・景色。その部分に集中して。市民ワークショップでみんな話した。内藤先生とか、いろいろな意見を聞いた。行き違いもあった。

4. まちの宝を生かしてまちを博物館に [資料(6) これまでの活動内容 1/2 参照]

商工会議所の事業。鳥羽の自然環境と、具体的な事業としては弘法井戸に童地蔵と石柱を設置、岩田準一郎の整備、「鳥羽みなとまち文学館（まちかど資料館）～乱歩・夢二館」、
「鳥羽文学ギャラリー」。

川村：エコミュージアムでまちを生かす。

5. マリントウン、都市再生、鳥羽市の取り組み

[資料(10)佐田浜・岩崎周辺地区(三重県鳥羽市)整備方針概要図、
資料(11)港湾事業平面図(第1期計画、平成17年度予定)参照]

「まちこう事業」と呼んでいる。都市再生整備計画。まちづくり交付金事業はあるテーマを持ってやっていく事業。国から承認をもらって、その計画が都市再生整備計画。その具体的なのが、具体的な整備箇所は、岩崎通りや相橋、大黒橋、回遊の遊歩道。
マリントウンは、港湾事業。第一期棧橋中まで工事をして、平成20年度完成を予定している。防波堤の改良や地盤整備。

川村：どこにどれだけ自由度があるかは次回に。

6. ★ここだけは聞きたい質問 TIME 19:37~20:05

Q1：事業が終わっているのか、終わっていないのかわからない。継続中かどうかとも教えて欲しい。

課長：一部終わっているものもあるが、全て継続中。[以下、参照]

	「これからやる」「現在継続中」の内容
中心市街地活性化	公共の部分を受け持とう出始めた。まちづくり交付金事業の中で現在動いている。
エコミュージアム	鳥羽をいくつかに分けてやられている。今年度も計画している。継続している。
伊勢志摩空間快適	今年度、県が事務局を受ける。協議で終わる可能性あり。原則継続。妙慶川界限で住民主体でやっているところは継続していきたい。
とばベクトル会議	ものをつくることを考えていたのは終わったが、掃除をしている。「かもめの散歩道」のソフト事業。景観ガイドブックつくったが皆さん知らない。
鳥羽まちづくり工房21	テーマが違ってくる。大きな試みはないが、少しずつ続いている。
都市再生整備事業	マリントウン、交付金事業、景観をよくしていこう、妙慶川界限についてこれからやっていこうということ。

Q 2 : 国・県からこういう事業であるから予算が下りるということで、やってきたのか。ビジョンがあってやってきたのか。連携があるかどうか。すでにビジョンができているのか。

課長 : 理解が違っていたらすみません。中心市街地整備改善活性化基本計画が平成13年。それぞれのグループ（とばバクトル会議、空間快適 TOBA、etc.）は県なりが立ち上げた。鳥羽市が立ち上げたのはない。商工会議所はない。市も会員になっていた。市は何もなかったこれまで。怠慢部分を、現状の中で、これからどうやっていくのか。

Q 3 : 連携は？

課長 : 県の窓口が違う。人間の相互のつながり、商工会議所、市の担当。中味としては連携が取れていない。ごたごたがあった。それを解消したい。誤解、考え方の相違。まちづくりを一緒にやっていきたいというのは同じ。憶測が入り混じったり、いろいろな方向にいつている、動く方向とか。鳥羽のまちをよくしていきたい。連携はほとんどやっていない。

Q 4 : この会議は？

課長 : 各界のグループから推薦していただき、グループの中で意見を取りまとめていただいて、このグループを鳥羽のまちづくりの中心部分にもっていききたい。

Q 5 : 鳥羽市の方の担当は違うのか。この場に事業の担当はいるか。鳥羽市の窓口は一本化されているか。

課長 : 建設課、まちづくり課、商工観光課、この場には担当レベルの出席は求めていきたい。風通しをよくするのも実務者レベルでやっていきたい。「まちづくり課は」ということでなく、「鳥羽市は」ということで、進めていけるように。

Q 6 : プロジェクトがいろいろある。県の方からいろいろあって立ち上がってきたのはわかった。共通理念がないってということ。継続しているものが、共通するものがなければ、最初からやり直さなくては。

川村 : 見えないだけで、少しずつ共通するものがあるのではないかと思う。景観をよくして、お客様をとということや。

Q 7 : 緑地計画なんかは、無いよりあった方がいい。市民が快適に暮らすことがもてなしにつながる。その快適は何かというのが、プロジェクトを立ち上げるときに話されているのか。

川村 : それぞれで市民を呼んでやっていたりする。それを一つの団体ではやっている。横のつながりがいい。第2回目からそれぞれのやっていることをわかるようにしたい。

Q 8 : 課長が言ったが、ベクトル会議の時も同じことを言った。岩崎通りのこともベクトル会議で、土地改良計画も掃除しているんだわ、ということで終わっている。(だから) 本当かどうかわからない。また集められているのか。必要なときに集められて、また放られるんかい。がんばっていこうという気にならない。

課長 : 実際、皆様方の人選をどうやって選ぼうか考えた。中心部分に置きたい、(いままでのものを) まとめたものにしたいと話し合った。団体の長の方に出ていただいたとしても、まちのことをよく考えられなかったり。ずっと住んでいく人、実際その方々の意見を吸い上げて、平成21年まで、5カ年間続けていきたい。ここで、やっていきたい。もう一度だけテーブルについて欲しい。組織表、組織図[資料(13)まちづくり体制(案)]の中で、この会議は今右側の(仮称)とばみなど・まちづくり市民協議会。中央の、(仮)とばみなど・まちづくり会議、その構成部分についても、「市民協議会」この会議で意見をいただきたい。情報を提供していきながら、この会議を進めていく。いろいろな方を交えながら。

川村 : 住民と行政の現場ということですね。

課長 : 皆さまの代表を10名くらい選んで、この中で最終決定をさせていただくことになる。これを中心にしてやっていくということで考えて欲しい。

川村 : 『① ここで話し合う』『② 5年間継続してまちをよくしていく』

Q 9 : それぞれ努力してやっている。それぞれの姿勢は？

川村 : うまくいっていないこともあったかもしれないが、それぞれががんばっている。そのよいところも共有して欲しい。その上で、改めていくべきことは改めて、よいまちづくりをしていく。忌憚のない意見を、この後の「～★ここがヘンだったよ！鳥羽のまちづくり～」で出してください。

■ 休憩 20:05～20:14

■ Step4 約束の共有と合意 20:14~

1-(1) 運営方法(ファシリテーターの役割、アドバイザーの役割)

事務局の役割、メンバーの役割、協働型会議(WS)とする旨、中立性の確保

川村：再開したい。これから会議を続けていく時の決め事、目的を皆さんに諮りたい。運営方法は「ワークショップ」ということで、会議です。対等の立場で参加する。進行役が進行します。「ワークショップ」のルールはごくごく普通のマナーです。個人攻撃や誹謗中傷をしない。発言は手短に。対等。ただし、活発な議論。和らげたいが、手加減はせずに本当に伝えたいことは伝えたい。「鳥羽のために」ということで議論を続けていって欲しい。やりとげましょう。その覚悟です。事務局としては、まちづくり推進課。進行役を伊勢志摩NPOネットワークの会が。もし、鳥羽市がおかしければ、私の立場から言う。一人一人にもおかしかったら言う。浅野先生にもできるだけ来てもらう。わたしたちが示威的なことをいったら、浅野先生からお叱りを受ける。中立的にやっていく。

1-(2) 正副座長を募集、推薦

川村：9月23日金曜日に浅野先生に会いに行った。どなたか、座長、副座長になっていたというアドバイスをいただいた。どなたかいらっしゃいませんか。

吉水：岩佐さん。

岡村：鳥羽まちづくり工房21さん(奥田さん)、とばベクトル会議さん(岩佐さん)、空間快適 TOBA さん(世古さん)、三者で考えてもらってはどうか。

(お互いに譲りあい、奥田さん、世古さんは岩佐さんを座長に指名)

川村：では、岩佐政徳さん[とばベクトル会議]が座長、奥田徹さん[鳥羽まちづくり工房21]、世古貢さん[空間快適 TOBA]が副座長。幹事的なこと、組織図的なことも含めてお願いします。

1-(3) 組織・体制について [資料(13) まちづくり体制(案)参照]

岡村：ここで話し合ったことがどのような流れになるか。(仮称) とばみなと・まちづくり市民協議会(公募、各団体推薦)は、市民の意見を取りまとめていただく場(現場、最前線)。集約されて合意されたものが、真ん中の(仮) とばみなと・まちづくり会議、企業代表の方、専門家にも参画していただいて、ここで、取りまとめた意見を決定していく。

川村：ここが委員会で、(仮) とばみなと・まちづくり会議が理事会みたいなもの。

岡村：ここを最優先で。ここから10名程度を推薦していただいて、最終的に協議していきたい。幹事という方を推薦していただいて、この会議を。伊勢志摩NPOネットワークの会もしていただくか、会の運営もどうしていくか、下支えしていただきたい。

川村：代表させる人たちをこの場で?座長、副座長と後で?少なくとも、まちづくりの振り返りをしないと。実際問題、現場から情報をここに持ってきてほしい。デザイナーさん呼ん

で。

岩佐：ある程度、会議の内容が決まってきてから。

川村：座長、副と運営会議を持って。

2. タイムスケジュール [資料(14) とばみなとまちづくり今後の流れ概要(案)参照]

川村：9月26日は概要。10月、まちづくりのものがたりを語る。今までの取り組みを振り返る。ベクトル会議、まちづくり工房21、空間快適 TOBA など、もっと深く理解する。11月初旬、相互理解する。それがうまくいったのか、どこがうまくいかなかったのか、実像をみんなでつかむ。11月後半、もう一回、実際に見てみよう。12月、いろいろなまちづくりのコンセプトがある、みんな一緒に考えていたりする。共通の地盤を共有する。これだけは譲れない根っこのテーマ。それを手がかりに、一番大切なことは何かを探る。1回目は抽象的、2回目に具体的に振り返ってみたい。

岡村：事業が始まっている中で、事業に、無理をお願いすることもできてくるかもしれない。

3. 得たい成果と、その成果をどのように活かすか

川村：得たい成果とその成果をどのように活かすか。誠実に説明しようとする、不信感が生まれる。端的にいうと、約束として「①この場所が正式な協働の場です。」「②鳥羽市として、ここで決めたことを最優先で取り上げます。」これは、鳥羽市自体が今まで主人公でなかった。5年間。そうですというお返事をいただきました。

谷口：ここでやめようって言ったことは、やらないっていうことを約束していただけないか？良いことだけ、下りてこないことをやらないということを検討していただきたい。全部情報公開していただけるのか。

課長：

川村：鳥羽市のまちづくりの情報はすべて。

谷口：まちづくり課の予算も。

課長：

谷口：予算として上程します。

川村：求められていることを、ということ。大冒険ですよね。わたしたちも責任ある議論をしていきましょう。

谷口：役所内での承認を取れているのか。

課長：議会を通すことも。できることを。

吉水：都市計画課が「します」ということであげるのか。議員の方からあげるのか。

課長：行政の方からあげていきます。

吉水：都市計画課があげていく。

尾崎：議員も3人入っているから、上からもあげていく、下からもあげていくということで。

川村：ものごとが起こる前に予防的にやっけていく。情報をあげてくる。
課長：鳥羽のまちをどうしていくか。
世古：これ、すごい責任がある。
川村：個人の立場を捨てて、鳥羽のためにがんばって欲しい。
課長：去年やらせてもらって、役所は1年先でないとできない。
吉水：早く決めないと。
世古：順調にまわってきたら、県にも要求できる。
川村：国にもできる。
岡村：国の事業のためには、その辺の流利的にも。
川村：今決めとかんといかんぞ、とうことで、決めてしまっ、予算の取れる時までには決めておけば。

4. 情報公開の方法、機会の確保、その他

川村：情報公開は、まちづくりレターを会議ごとに出す。伊勢志摩NPOネットワークの会でもライブ情報を出していく。誰でも見えるように。
村瀬：まちづくり提言会議については？下では？
企画：企画で、18年度から動いていく。後期22年度までの5年間。具体的なところはできていない。
川村：総合計画で満足度の尺度を出した。ベースの、根っこの部分を出した。生活に密着した、それをどう実現していくか、いうなればマスタープランになる。
企画：どういう手段でやっけていくか、幹。
川村：できる限り出していく。
岩佐：参加できない人（市民委員）が意見を出すことができるのか、どう入れていくのか。（メンバーはこれで）打ち切りなのかどうなのか。
川村：①オブザーブ自由。②できれば市民公開の中間報告をしていく。
岡村：大体このメンバーでいきたい。ブログとか。
川村：振り返りシートやコメント機能で。
企画：図書館、ひだまりの場所をできるだけ、みなさんの目にとまるように。

■ Step5 長期ビジョンを語るトーク VOL.1

★～ここがヘンだったよ！鳥羽のまちづくり～

世古：外の人（コンサル）がさっとな来て、決めていくとかある。
岡村：いろいろな情報も勉強しながら、アドバイスを受けながら。
川村：ここが主役。
小川：人が多すぎる。分科会的にやっけて合わせるか。意見が言いにくい。
川村：半分に分けるか。少なくとも2つ。できるだけ意見が満遍なく出せるように。
谷口：市長のスピーチが、「マリンタウンの上ものをやったらええわ」ということで考えて

いるようだったが、そこをきちんと伝えて欲しい。

小川：鳥羽市の中心地だけ？離島とかは？

岡村：交付金があるので、まず中心市街地をやっていきたい。鳥羽駅周辺は鳥羽の顔。

青木：グランドデザインという部分では、全体を考えるのは大事。グランドデザインは？

課長：水族館を見て、離島へ泊まる、相差、石鏡に泊まるといったことも考えていきたい。

小川：日和山、離島も含めた、全体のグランドデザインは？

青木：首尾一貫したものを市さん、あるいは商工会議所さんがあれば。

川村：基本としては鳥羽市中心部、一番最初からグランドデザインは難しい。

村瀬：ここに「とばみなど・まちづくり」の目的が、短期、長期ある。前提として、みなと城下町まちづくりビジョンがあると考えられる。昭和、大正で、リトルワールド鳥羽になる。岩崎で市役所の人 came たところから聞いた。われわれはビジョンを考えると。

課長：みなと城下町ビジョンはない。歴史文化を大事にしたいなという方針があるだけ。伊勢志摩再生プロジェクトで県がつくった。市はつくっていない。概要部分しかない。実際それでいいのかということ。商工会議所さんがつくっている計画、県がつくった計画、それらがある。

川村：いろんな立場の人が検討している。最終的にそれらを参考にして決めていく。

(女性)：かもめの散歩道、マリンタウン、総合的に考えたほうがいいのではないかな。

課長：全体的には考えて欲しい。予算で計画。今年度予算に入っている部分は早急に対応をお願いしたいという部分もある。

谷口：それをやめるか、やめないか。

課長：いつまでに決めるかという時期がある。3月に決まっても、12月までにやるかやらないか。(こういうことは)本当は平成13年、14年にやっておかなければならなかった。

(松)：予算的な制約をわれわれに出してもらわないと。どれだけか出して言わないと、空論になる。妙慶川とか、地域の人に声をかけて、行政主導でやってきていただいた。それは本当にいいものかというのは審議するのか。

(女性)：イメージをもっとオープンにさせていただいて、具体的に出していただいた方がいい。

川村：そのために、

(松)：次回までに。

(不明) 現状報告をもっと具体的に出して。

尾崎：説明不足なんですよ。細かくやっていただくことを、事務局はやっていただかないと。

中村：グランドデザインがないと。今あるグランドデザインを出してもらわないと。確たるものでなくても。ひだまり、図書館、行く人が限定されている。ハローとかにも。総合計画だったら。

青木：グランドデザインがある中で、イメージができる。全然変わってくる。市全体で。商工会議所さんの考えていたゾーンも。

川村：平成8年につくったもので、それを見直す。

■ Step6 アドバイザーの言葉

川村：浅野先生からメッセージを預かっている。読み上げる。

『都市計画、現状が法律と乖離しているのではないかと。とっかかりは、中心地からやっていって、それをマスタープラン化していくのがいいのではないかと。その根っこを結びつける。急がば回れ。』

杉田：離島、他の離島とは、かけ離れてしまう。念頭に入れて。最終的には。

課長：離島関係も含まれている。追い追い情報を出していく。

宮本：次回に回しましょう。

中北：いまやっとなことにストップかけるのか、どうかということか。

■ Step7 今回の成果の確認と次回の説明 21:24~21:32

川村：(目的は) 次回にしましょう。今言った意見を受け止めて、箇条書きにして、検討させていただいて、返事をするに。目的の文言をみんながうんうん、と言えるものに。名称も次回にしましょうか。

谷口：「みなと」は要るのかどうか。広く理解するのであれば、「みなと」は要るかどうか。もう一つ。協議会は協議でいいのかどうか。諮問委員会、スタートは協議会で、その後で変えていくということでもいい。

川村：今日は、約束をしました。「①この場所が正式な協働の場です」「②鳥羽市として、ここで決めたことを最優先で取り上げます」「③ここでだめだということはやらない(文言をまた考えてくる)」

吉水：市民参加と行政のアリバイづくりは違うということをちゃんとして欲しい。

川村：その辺をきちんとしていきたい。

中村：ここでやることを最優先します、ということで担保されているのでは？

谷口：これだけの人がやらないと聞いているが、書いておいた方がいい。

杉田：会自体が責任を持つということで入れておく。

世古：この会議は行政の中でどういうポジションか？ここで出た意見が議会でということもある。

川村：そこもあわせて。それだけの重みのある名前にしないと。「ここがヘン」というのは、みんなで決めたことがばっさりいってしまった。その他、これだけは言っておきたいがなければ。ないですね。次回の日程は？候補日だけでも。

岡村：10月中旬くらい。

川村：17日の週で、決めますか。

谷口：いつまでに決まるかだけ。今月中に決めていただけますか？

川村：今月中に。ご案内はワードで送ります。まちづくり課のアドレスは、Machi.01@city.toba.mie.jp、Machi.03@city.toba.mie.jp が岡村さんです。